



ここに何があったのか。

二面に続く

第6巻第11号
通巻第71号

発行所 東京都杉並区成田東4丁目3番4号 〒166-0015 からす新聞本社
からすホームページ <http://www.go-karasu.com/>

投書・お問い合わせのE-mail : colors@go-karasu.com

浜崎あゆみという女性がいる。特別に意識せずとも、テレビのCM等々で彼女の姿を見たり、彼女の声を耳にしたりしている人は少なくないだろう。いや、少なくないなどという段階ではないはずだ。それほど、露出度の高いタレント本人はアーティストと主張するのだからである。

でかい目玉に優れたスタイル、今時の小僧小娘の心情に何かを訴えかける歌詞、それなりの曲やアレンジ、と欠点らしい欠点がないからか、その人気は大変なものである。しかし、実を言うと、私はあまり彼女を好きではない。いや、好きではなかった。どこがどうということはないのだけれど、私にとっては魅力的なところがないのである。いや、なかったのである。

先日のこと。新中野教室でマンツーマンの授業を行った。相手はその浜崎嬢である。彼女は勉強が得意ではないようで、教える私も教わる当人もお互いに相当に苦労した。そうは言っても、私は教えることを生業なりわいとしていた期間も長いわけで、その間には、もっともつとはるかにほかに訳のわからん生徒もいたし、あれこれと七面倒くさいどころか八面倒、いや、九面倒くさい相手だっていたのである。それに比べれば、浜崎嬢は、授業内容の理解度は低いもの

の、決して反抗的なわけではなく、ぱつちりした目ん玉で板書ばんしょをせつせとノートに写し、それだけでなく、目が合えばにこりと微笑ほほえみむことも忘れない。出来が悪くたってしょうがないよ、本人は一所懸命なんだから、というような気にさせる空気を醸かほし出すタイプでも言えは良からるか。

あたふたしているうちに時間は過ぎて授業は終わった。大した成果が得られず、私としては少なからず不満に思うものの、当人にはここにこそとしてすっかりご満悦の体。こんなにわからんのに喜んでいちゃ進歩しないよなあ、と心配になる。「もうちょっと基礎的なことから丁寧に復習した方がいいね」「はい、わかりましたなどというありがたいな話を交わしながら、教室から出ていくと、辺りには多くの同僚や友人がいた。本紙にも連載しているお馴染みの顔触れもたくさんいる。その彼らが「えっ」「あれええ」などなど呻うなきのけ反り、中には「うへえ、どうなってますか」「まじっすか」などと自問するように叫ぶものもある。そんな彼らを放っておいて。そのまま表へ出ると、町行く人々は振り返り立ち止まったり。「おい、浜崎だぜ」「隣のおっさんは何なんだよ」などなどどと噂うわさしい。中には、携帯電話でカシャ

(最終面に続く)

からす新聞は××××

が母体となつて、世界に文化と芸術を発信すべく発行しています。

誰でも自由に参加できます(無茶じゃない範囲で)。

今日の紙面から

三画(建築面)

Is this really architecture?

四・五画から(ライナーノーツ)

CD 『A Girl Called Eddy』

本 『私の狂気を生き延びる道を教えよ』

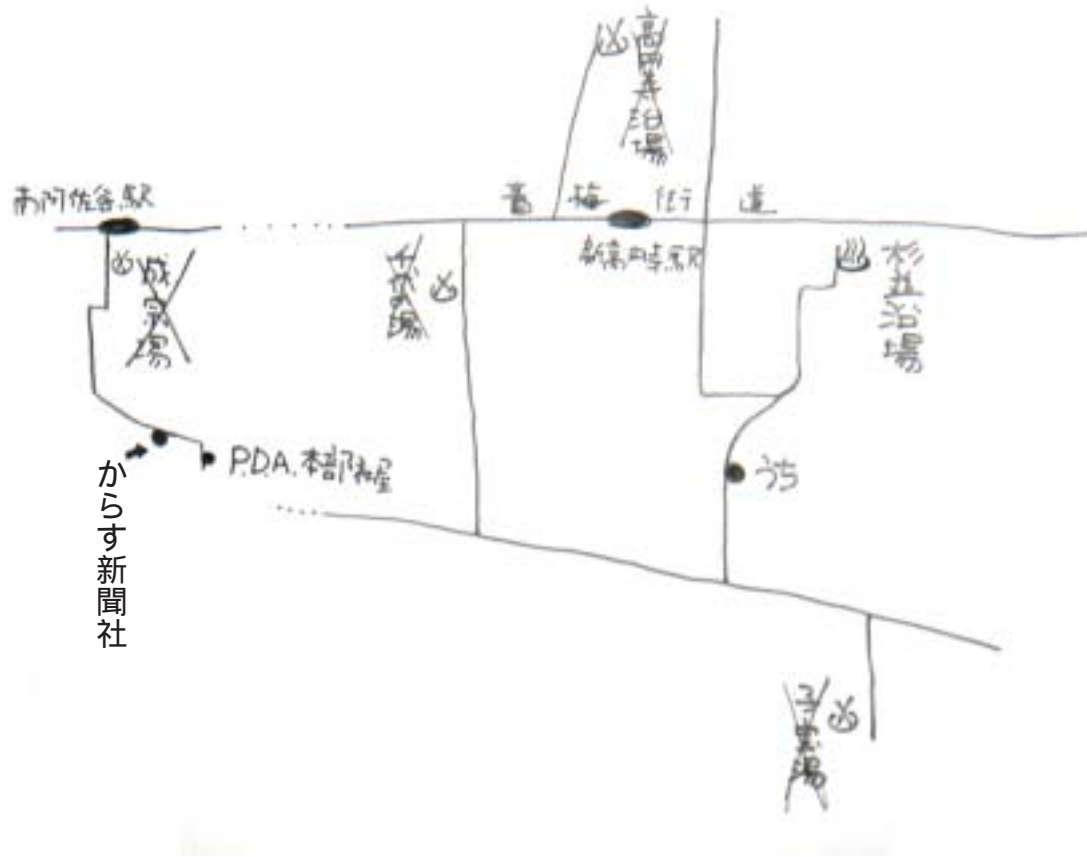
ライナーノーツ・あさがや下ラムII

六画(ロンドン・レポート)

生まれた後で

七画(語面)

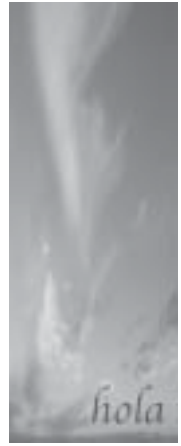
否定deny



からす新聞社からほど近い東京都杉並区堀ノ内で暮らしている。ここ10年で我が家から歩いて行ける風呂屋は4軒から今や杉並浴場1軒だけになってしまった。風呂無しアパート歴20年の私にとっては死活問題である。(望月)



成宗湯跡地



Is this really
Architecture?



詳細は乞うご期待！！

 Live


ヤンピボのカタで哀愁

最後のステージは七年前だったはず。初めてのそれは多分高校生の頃、そう20年以上前になるのか。しかし、三十路半ばを過ぎて初めての体験をする、それも大勢の人前でというのはなかなか出来るものではないかもしれない。

暮秋と明冷の境、11月最後の週末、南阿佐ヶ谷駅そばにある「ドラム」という小さなライブハウスが舞台。今回で2回目を迎える「Zeta」提供の集いなのだ。前回は夏真っ盛りの8月だったので、3ヶ月ぶりの開催とあいなった。この「ドラム」というライブハウスは40名も入ったらパンパンというぐらいの小さい箱だが、何せ住まいから近いという立地条件の良さ、箱代(会場のレンタル費)が激安、さらに支配人が地元顔見知りという事で定期的に色々な面々を迎えてライブ活動をしようじゃないかという話から立ち上がった企画である。かく言うヤンピボは当初から雑用係として参加させてもらっていたのだ。

いつまでたっても有名になっておらず、それこそ20年来の付き合いになる工という役者がいる。最近は何つきり酒に弱くなったという話もちろほら耳にするようになったし、デタラメな昔話をし出したらキリが無いので割愛するが、ヤンピボの本当に数の少ない理解者決して良い意味だけではないのだが・・・(の一人)だったという訳で、世間ではこれを腐れ縁と言つのかもかもしれない。そんなI氏から突然連絡が来たのは11月の初旬。本人は初回のライブにも出演しているのだが、今回はピンでの出演企画に、数曲だけゲスト出演させてもらえろという内容の連絡。担当楽器は、ブルースハーブ(穴が十個で10Holesとも言う)というマイクハーモニカ。楽器の講釈は横に置くとして、件の道具はヤンピボが数年前に突然思い立って米国の楽器屋を回って購入し、些細な練習を始めたものだ。当然、人前で吹いた事なんざ一度も無い。もっと言えば、ほとんどまともに吹けたためしはない。しかしブルースハーブというのは、ただ吹いたり吸ったりするだけで



決まった和音が出るようになっていくすぐれ物。ヤンピボは即座に出演させてもらう事にした。とは言え、実際どうやってI氏の演奏に合せれば良いのか全く検討がつかない。出来るだけ早いうちに打ち合わせをして、本番まで猛練習せねば・・・。

結局、本番一週間前に打ち合わせを一度しただけで当日になってしまった・・・。その打ち合わせでも、結局、Z氏に吹き方を見繕ってもらったのは言うまでも無いが・・・。

ライブは三部構成で、最初は恒例になりつつもある「あさがやんず」の舞台。読者の中には知る人も多い活動歴20年を超える超ベテラン。新曲も織り交ぜ約40分のステージ。ドラム・ベース・ギター・サクソス・ポーカーという構成。本来メインバンドのはずなのに、何故最初の出番かという、ライブをとっとと終わらせて早く呑みたいかららしい。「わらえ」というシニールな曲で始まり、独特の音を連ねていった。

今回トリを務めたのは「なんだっけバンド」という、耳なじみの深い曲を楽しめるアレンジで奏でている。平均年齢は四十路に近いと思われる中々楽しいバンド。なかでもキーボード担当の紅一点が「六本木心中」を熱唱したのは、思わず頬が緩んだ事は内緒にしておこう。因に、聴衆の中にも熱烈なファンが出来た事も、もっと内緒にしておこう。

えっ？ 問題の二番目はどうなったかって？ どうしても知りたい人間が万が一にも居る場合は、天文学的数字が分母に納まる確率でライブ模様を納めたVTRを見るチャンスに賭けてみたらいいんじゃないかなあ。





Books

われらの狂気を生き延びる道を教えよ

大江健三郎

新潮文庫 ISBN: 4101126097



もとはバラバラに発表された短中編が一冊に構成された理由を第一部とし、この本は三部、6つの短中編からなっている。実は初めて著者の作品を読んだのだが、面白い。今までに読んだ事の無い質感があった。

大なり小なり、誰でも狂気と言うものを持っているのだらう、と思うのは間違いないのだらうか？ 少なくとも僕はそう思っている。音のしないものや激しいもの、突然現れるものや始めからそこに在るもの、皮膚を破って出てくるもの、出てこないものの違いは何処にあるのだらうか？ どのような言葉を使って人々は、それらと話しているのだらうか？ 僕たちは(狂気は)何処から来て何処へ行くのだらうか？ そんな事を考えてしまった。

(神山)



A Girl Called Eddy

Anti, 2004年、86719-2



CDs



遅れてきた新人なんて表現が似合ってしまうのが残念だ。ネオアコなんて括りが似合ってしまうのも残念だ。気取ったデザインが60年代や70年代の女性ヴォーカリストの誰彼を想起させてしまうのも残念だ。銜いのないメロディ、必要にして不可欠な演奏、あるがままの歌声がそこにあるだけなのに。何だかPrefab Sproutが突然出現したときのことを思い出す。こんな記憶はどちらにも失礼な話だろうけれど、凡百のそれなりに似合う言葉はあるのに、本当にびつたりする形容がみつけれずに、むず痒い気分。

耳を傾ける。リスナーに求められるのはそれ以上でもそれ以下でない。好奇に満ちた余計な想像力を抑えて、今日は、ただ耳を傾けよう。

(全太)

London Report

産まれた後で

日本の友達に子供が産まれたそうだ。子供が出来たり、結婚したりした初めての友達ではないにせよ、ちょっと感慨深い。小さい頃から知っている奴だし、そんなに早く結婚したり家族を持つたりするタイプではないと思っていたからだろうか。思い起こせば、彼がフィリピン人の奥さんをもらって結婚すると聞いた時も「おお、そっなのか」くらいにしか思わなかった。もちろんお祝いする気持ちはあつたし驚きでもあつたが、あまり何かが変わるような意識はなかった。向こうで結婚式を挙げると言うので、その前に向こうに遊びに行き、彼らと合流して2、3泊の国内旅行に一緒に行った時もごく普通。本人達からしてみれば、両親に会ったりとそれは色々大変で一大行事なのだろうが、単に友達である僕からしてみれば、何だか彼女からもう少し親密になったのだからにしか感じていなかった。そこへ奥さんが無事日本で出産したとの知らせ。そしてその知らせを聞いた瞬間に、今までの事が全部本当だったのだと、思い直してしまつぐらいにびっくりした。彼がそこまでその結婚に身を捧げていると言つことに、今さらながら気が付いたのだ。本当に不思議な感覚だ。子供が産まれて自分の家族を築いて行くと言つ事はどういう事なのだろうか？おそらく自分には一生縁のない事だけに、余計にそう感じる。小さい頃うちに泊まりに来た際に夜中に自分の家がどうしても恋しくなつて、お母んに車ですつてもらつて帰つた彼は今、フィリピン人の奥さんと子供を一人抱える父親なのだ。今まで所属していた両親の家族の枠からもう一步踏み出し、新たに自分の家

族の枠を築く。そのようにして自分たちの親の親の代、そのずっと前の代から血は繋がって来たのだから。そんな事を考えると、子供を作ると言つ事は人間の本能自身の願望のような気まですてくる。僕が産まれた時に爺ちゃんや婆ちゃんは何を思ったのだろうか？

そして別の友達の話。幼なじみの一人で彼ももう結婚していて三才になる男の子がいるのだが、僕がそんな事を考えて物思いにふけていた一週間後くらいに、彼からメールが来た。彼のお婆ちゃんが亡くなったとの知らせ。産まれる者もいれば去る者もいる。理屈ではわかっているが、何だかそれを目の当たりにしているようでショックが大きい。よく昔、彼の家で隠れんぼをしている時にお婆ちゃんにみつかつてしまつたりしていたのを思い出す。爺さんはいつも怒っていたがお婆ちゃんはいつも笑顔で、たまに訳のわからない事を言いながら、それでもニコニコしていた。そんなお婆ちゃんの告別式。彼の奥さんがお焼香する際に、子供を抱きながらした。すると、子供がお母さんの真似をして笑顔で合掌したらしい。その姿を見たら可愛くて、一瞬、ニヤニヤしてしまつて困つたという話を他の友達から聞いた。多分、僕もその場面を見たら思わず微笑んでしまつたろう。よく分からないまま、小太郎少年は自分の血の繋がりにきちんとお別れの挨拶をしたのだろうか。「本当に時間は、止まる事なく進んでいるんだなあ」と思つてしまつ。そうやって少しずつ、世代交代して行くのだから。その小太郎少年も年が明ける頃には弟が産まれ、お兄さんになる。

(神山)



否定 / deny

先頃の秋篠宮の会見でまた話題に出た皇太子による「人格否定」発言。

「それまでの雅子のキャリアや、そのことに基づいた雅子の人格を否定するような動きがあった」

具体的なところを措いておけば、なんかどこぞの大学入試の英作文で出題されてもおかしくない文。そこで試しに英語の得意な高3生I君にやってみてもらった。

There were moves that seemed to deny Masako's career till then, and also her character based on that.

move (動き) deny (否定する)

上出来である。それでは各方面はどんなふうに訳したのか。調べてみたら、笑っちゃったのが朝日新聞のオンライン版 Asahi.com。

There were moves that seemed to deny Masako's (pre-marriage) career and, based on that, denied her character.

pre-marriage (結婚前の)

I君と発想およびボキャブラリともほとんど一緒やん。ま、私が思い付いたのもだいたい同じなわけで、実に受験英語の系譜を見る思いである。

では海外ではどうだったか。構文的にはやっぱり同じなんだけど、目に付いたのは、イギリスのBBCやアメリカのWashington Postなど複数の米英メディアが「否定する」に **nullify** を採用していたこと。

There were moves which **nullified** Masako's career and **nullified** her character based on that career.

[ボストン・グローブ紙]

nullify はカレッジライトハウス英和辞典には、「格式語」として「(法律上)無効にする、無価値にする」などとある。英英辞典によれば、

deny : say it is not true (真実ではないと言う)

— Collins Cobuild

declare untrue or non-existence

(真実でない、または存在しないと断言する)

— Pocket Oxford

nullify : make it ineffective

(効果 / 価値のないものにする) — Cobuild

neutralize (中和する、無効にする)

invalidatate (無効にする) — Oxford

「否定」を使った皇太子の真意を測りかねるところもあるが、学歴詐称ならいざ知らず、皇太子妃の外交官としてのキャリアは事実なのだから、deny はあまりふさわしいとは思えない。人格にしても、「価値を認めない」の方が適当だろう。いやしかし、奥さんの存在そのものが「否定」されるような地獄であったと、旦那さんは言いたかったのか。

広辞苑の「否定」にはこうある。

「そうでないと打ち消すこと。(価値などを認めないこと) 前者は deny だが、後者はどうやら deny には含まれていない。

今回、英米のメディアでは **nullify** のほか reject「拒絶する、受け入れない」はあったけれど、deny を使っているところは見つからなかった。彼らの判断だけを正しいとも言い切れないが、少なくとも漠然と「否定」= deny と考えるわけにはいかないようだ。

ちなみに、宮内庁の公式訳は以下の通りであった。

It is true that there were developments that **denied** Princess Masako's career up to then as well as her personality driven by her career.

(<http://www.kunaicho.go.jp/press-crown/prince2004-0510.html>)

(望月)

あなたの子どもは大丈夫？

あなたの平穏な生活を脅かすストーカーを本場米国で培った最新の技術と装備を駆使して退治します。あなた一人で悩まないでください。

ストーカー
バスター

produced by

P.D.Agency

tora@pda.co.jp

4-3-49-1, Suginami-ku,

Tokyo 166-0015, JAPAN

voice : +81-5347-9063

facsimile : +81-5347-9064

カシヤカシヤカシヤ写真を撮り出す不逞(ふたい)の輩(やから)もいる始末。電話片手に、すぐ来いよ、マジで浜崎がいるんだってば、などと仲間に呼びかけているものもいる。とんでもない連中だ。いい加減にしろよ、とそのような下衆(げす)な者どもを掻き分け掻き分け、何とかあゆを無事に帰路につかせた私である。いやあ、疲れた。心底(しんぞこ)疲れた。それにしても、浜崎あゆみの人気たるや、私の想像をはるかに凌駕(りやうが)した凄絶(せいぜつ)さだなあ……つらむ……というようなとぼけた夢を見た私である。

兎にも角にも、この出来事以来、私のあゆ観は大きく変わった。普通に道を歩くこともできず、当然、気楽に呑み屋に入ったりすることもままならない。自分だけでなく、一緒にいる相手にまで被害は及ぶ。有名税という言葉があるけれど、それにしただって度を超えている。音楽性などと呼ぶほどでもない音楽性やちょっと頑

(一面から続く)

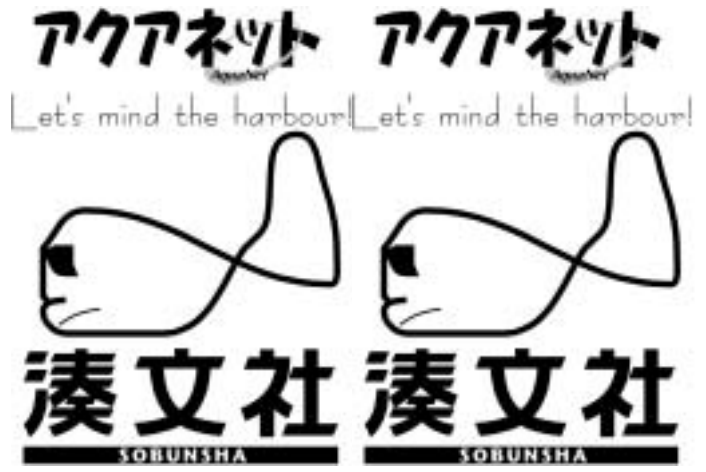
張れば私だって太刀打ちできそうな歌唱力(うたがへんりき)云々という以前に、彼女の日々の不自由を思うと何とかしてあげたいなあ、なんて思ったりして……俺は馬鹿か。間違いなく馬鹿であろう。馬鹿でも鹿でもないけれど見事な馬鹿である。孰(うづ)れにせよ、近頃では、陰ながら彼女を応援する私である。

ところで、夢の中で見た浜崎あゆみはどんな風だったのかというと、それは正しく私が思う通り寸分狂わぬ浜崎あゆみであるはずである。何しろ、夢というのは私の脳内での出来事なのであるからして、あらゆる細々とした断片に至るまで我が脳内で作り上げられたものであるはずだからである。にもかかわらず、私は何れとなく驚嘆し、あまつさえ、夢の中の体験をきっかけに、それまでは好まなかった女性を応援する気になっている。

夢というのはつくづく不思議なものだ。全く非現実的な事物(じぶつ)がリアルに感じられたり、非常に現実的な事物でも所詮(しよせん)これは夢だからなあと認識している場合があったり。

夢はどこからやってくるのか。深層心理の投影(ていけい)であるという人がいて、神のお告げだと言っている。宇宙からのメッセージだという人もいる。目覚めている時取り入れた情報をリコンストラクトすることにより脳がある種のガス抜きをしているのだという人もいる。私はどの意見に与(よ)るつもりもない。このような不可思議(ふかた)を易々(やすやす)と毎夜生み出す脳(なん)というものにただただ感動(かんと)するばかり。確かなのは、私たちの脳はまだまだ解明(かいめい)からは程遠く、覚醒(かくせい)時の私の想像を絶する能力を秘めている、ということである。

(全太)



ampm marusho
新井薬師前駅→

あいロード商店街

bar&kitchen Kanna

早稲田通り
中野通り
中野ブロードウェイ
中野駅↓

営業時間
平日・土曜日 11:30~15:00 / 17:30~25:00
日曜日 17:30~25:00

定休日
毎週火曜日 & 毎月第3日曜日

中野区新井1-30-6
第1三宮ビル1F
Tel : 03-5343-1316

bar&kitchen kanna

お一人でも気軽に楽しめる、食事もできるShotBarです。ビール、バーボン、焼酎からカクテルまで、豊富なお酒と、季節の素材を取り入れた手作りのオリジナル料理を、4/500円~と手頃な料金でご提供いたします。

木とテラコッタを基調にしたギャラリー風の店内は舞台スタッフの手作り。ぬくもりの中に遊び心が溢れ、くつろげます。作品の展示、音楽、演劇等のイベントも企画スペースの提供も行っておりますので、興味のある方はご相談ください。各種パーティー、打ち上げにも最適です。



Ken-ichi Shinozaki,
architect

Voice : +81-3-3220-0644
Facsimile : +81-3-3220-0640;
e-mail: geta-s@t3.rim.or.jp
篠崎健一アトリエ

編集後記
からす新聞第六巻第十一号(通巻第七十一号)無事、発行できました。新聞に限らず、これからも新企画目白押しなので、みなさんの御協力をお願いいたします。御意見・御要望をぜひお寄せ下さい。次号発行予定日は二〇〇四年十二月二十五日です。編集協力者 特派員記者 及び、投稿を熱烈にお待ちしております。

1クラス4人までの少人数制学習塾

3771

中野区本町2-50-12 ドエル中野201号
03-3379-1451

宝仙寺
ファミマ
おうめかいどう
中野坂上駅

3771